

EDU-Portトピックセミナー

『学校現場におけるSDGs取組 ～SDGs×国際世界とつながる体験～』

(令和4年9月3日)



東京大学  
THE UNIVERSITY OF TOKYO

# 日本型教育の海外展開が SDGsに資する可能性

東京大学大学院教育学研究科

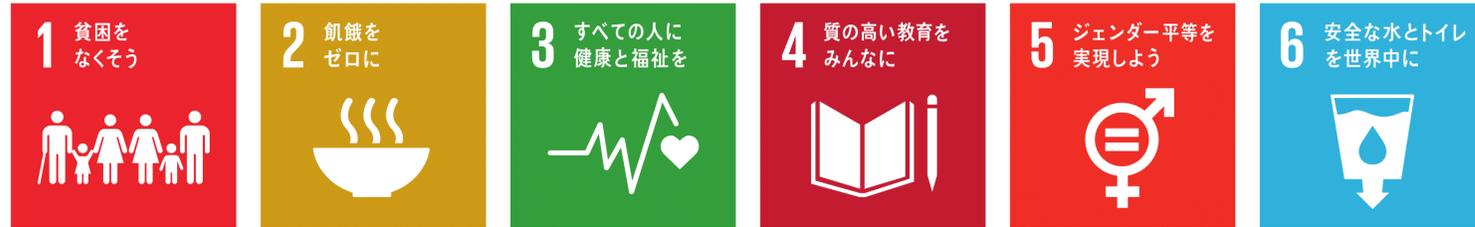
教授 北村 友人

# 持続可能な開発目標 (SDGs)

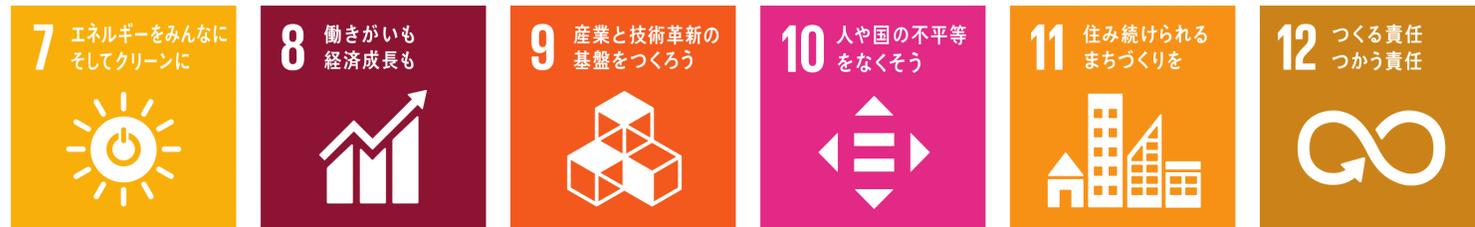
SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標

人間



社会



環境



教育は、あらゆる領域において重要なものとして捉えられている(人材育成+研究開発)

# なぜ、新しい「教育モデル」を求めるのか

—SDGsの実現を目指した新しい教育のあり方—

- 急速に変化する社会に対応するための教育システム
  - 21世紀型「横断的」・「汎用的」スキル
  - 生涯にわたって新しいスキルを模索し修得し続ける学習者を支援する生涯学習
  - 新たに出現する仕事のための教育・訓練
  - 活発化する学生たちの国際移動に対応した教育
  - 情報通信技術（ICT）の使用などを通じた、新たな学びのあり方
  - 地域の中での学びの機会や、地域と連携した学びのあり方
  - 文化、価値体系、言語、伝統の活用、等々
- ⇒ 教育の革新的変化が必要であり、参照し得る新しい「教育モデル」を求めて、多くの国・社会が模索している

## SDGsを実現する教育のあり方

- 国や社会によって求められる教育の**共通性と多様性**
  - 「**教授・学習の様式**」の変容
  - 政治的・経済的・社会文化的な**グローバル競争**に資する人材の育成
  - 伝統文化、宗教、言語、政治体制などの**ローカルな文脈**  
(=それぞれの社会にとって**自立的な営み**である教育)
- **学習成果 (learning outcomes)**を重視
- 民主的な社会の担い手である「**市民**」の育成

# 「日本型教育」の特徴・特長

- 高い基礎学力
- 協働的な学び
- 地理的・社会経済的な格差の小ささ（近年は格差が拡大している・・・）
- 規律（＝均質性や規律は近年失われつつある・・・？）
- 教師たちの同僚性
- 特別活動
- 課外活動 等々...

⇒ 知・徳・体をバランスよく育み、民主的な社会の担い手となる自立した「市民」を育成

# 「海外展開」の意義

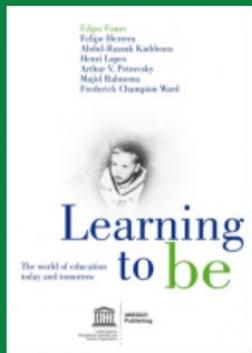
- 「合わせ鏡」として、海外の目を通して、自分たちの教育活動を見つめ直す
- 自分たちでは気づいていなくても、さまざまな教育実践のなかに、日本的な特徴・特長がある ⇒ 海外との「交流」を通してこれらに気づく
- 「押し売り」ではない ⇒ 「良いもの(=特長)」を共有したい
- 教育「輸出」に対する批判
  - 「ニーズ」があるから輸出できる？
  - 現地に「ニーズ」がないところには輸出できない？
  - どのような「ニーズ」があるかを理解する
- 授業研究 = 各国の「ニーズ」にマッチしたから広まっている
  - 孤独な教師にとって「協働」することの意味

## 「日本型教育」は「国際的な潮流」に どう位置づけられるのか？

- 「学力」や「教育」のあり方をめぐる、**国際的な議論**の潮流（その象徴としてのSDGs）
- 日本の**全人教育的なアプローチ**は、キー・コンピテンシーなどの議論に先駆けてきた
- OECDやユネスコによる**国際的な議論の場**において、日本がもっと貢献できることがあるはず
  - いまは、それが十分にできているとは言えない面がある
- たとえば、EDU-Portは、そうした貢献をするうえで、**さまざまなレッスン**を提供している

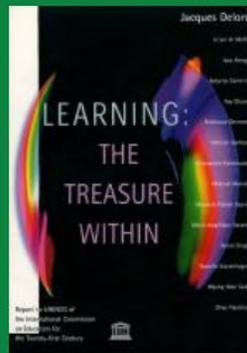
# UNESCO Futures of Learning

- 教育と開発に対する人間中心主義 (humanistic) のアプローチ
- グローバルな公共善 (global common good) としての「知識 (knowledge)」
- 「学習 (learning)」と教育のあり方を再定義
- 未来を民主的な社会にするための方略
- 公正さ (equity) と包摂 (inclusion)



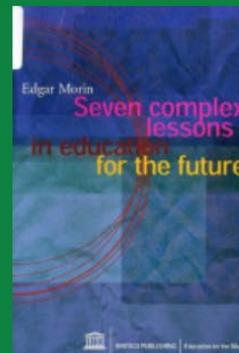
Learning to be: the world of education today and tomorrow

Faure Report (1972)



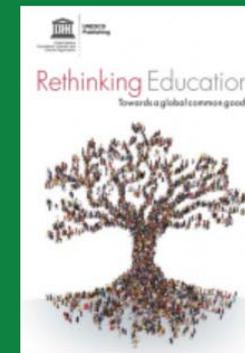
Learning: the treasure within

Delors Report (1996)



Seven complex lessons in education for the future

Edgar Morin (1999)



Rethinking education: towards a global common good?

UNESCO



Reimagining Our Future Together: A New social Contract for Education (2021)

# OECD Future of Education and Skills 2030

- 「**学びの羅針盤 (Learning Compass)**」

- 何のために学ぶのか？
- どのようにして学ぶのか？
- どんな力が必要なのか？



- 「**個人としてのウェルビーイング**」と「**社会としてのウェルビーイング**」を実現する：人間自身も生態系(エコシステム)の一つ

- より良い未来の創造に向けた変革を起こす**コンピテンシー**

- 新たな価値を創造する力
- 対立やジレンマに対処する力
- 責任ある行動をとる力

- **カリキュラム・デザイン**：教科内容の精選、教師への支援、効果的な実施

## 2020年代の学習指導要領

- 主体的・対話的で深い学び
- 教科横断・領域横断的な「学び」の重要性
- 教科担任制における教科横断の難しさ
- 生徒たちが自ら教科横断・領域横断的な学びを行う
- 新学習指導要領で重視されている「カリキュラム・マネジメント」
- アクティブ・ラーニングを強調することの功罪

# 「教育モデル」の海外展開を通して見えてくること

- 「**知識外交**」を通じた健全な競争と協調の促進
- 日本の教育の**良さと課題**を、それぞれきちんと伝えることの重要性
- EDU-Portの**日本への意義**
  - 日本の教育の優れた点と課題を、海外に持って行くことで知ることができる
  - 日本の教育現場や教育実践の国際化に資する
- 実は、日本型教育も、グローバル教育も、**根っこは一緒**ではないか
  - **主体的な市民を育てる**という目的は共有
  - そのアプローチとして、日本的なところに焦点をあてるのか、グローバルなところに焦点をあてているのか、という違いがある

# SDGsの実現を目指した新しい国際教育協力のあり方

- SDGsという**グローバルな言説**と**ローカルな実践**を、どう繋げるかは、すべての国・社会にとっての課題
  - 「日本型教育」というモデルを提示し、導入・実践することで、「繋げ方」を考えるうえでのヒントが、当該国にとっても、また、日本にとっても、得られるのではないか
- **教育援助**も、新たなアプローチを確立していく必要がある
  - たとえば、今日、「開発教育」は、先進国だけでなく、途上国でも行われ出している
- 個人と社会の「**ウェルビーイング**」を実現するための教育とは？